

## 第49回日本臨床化学会年次学術集会

千葉 仁志\*

第49回日本臨床化学会年次学術集会が平成21年9月18日(金)~20日(日)の3日間、中島憲一郎年次学術集会長・実行委員長(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科教授)のもと、長崎大学医学部の記念講堂、良順会館、ボンペ会館を会場に開催された。副実行委員長を上平 憲教授、事務局長を黒田直敬教授(いずれも長崎大学医歯薬学総合研究科)、代表実行委員を安東由喜雄教授(熊本大学)と康 東天教授(九州大学)が務められた。第20回日本臨床化学会九州支部総会(例会長:康東天、九州大学)、第54回日本臨床検査医学会九州地方会(例会長:岡山昭彦、宮崎大学教授)、第4回九州遺伝子診断研究会も併せて実施された。日本臨床化学会において標準化に大きな役割を果たしてきた宿泊形式の夏期セミナーは2007年の第26回(志摩)を最後に休止していたが、今回は「脂質・リポ蛋白基礎セミナー」として若手育成に役割を替えて復活し、長崎大学からバスで40分ほどの風光明媚な式見ハイツで開催された。

今回の臨床化学会年次学術集会のテーマは「躍進する臨床化学と医療への貢献」であり、基礎と臨床がそれぞれの分野においてさらに飛躍を遂げ、両者の相乗的な発展につながるようとの中島集会長の願いが込められている。中島集会長は、ご挨拶のなかで、長崎の和(日本)・華(中国)・蘭(オランダ)文化-わからん文化-を紹介され、臨床化学会が医学、薬学、臨床検査学等の多領域からなることに喩えられた。

一般演題数は78題で、前回の浜松での98題より減少したのは残念であったが、講演やシンポジウムは充実していた。第1日目は、教育講演1「転換期を迎えた脂質検査」(千葉仁志、北海道大学)、教育講演2「遺伝子変異から見た血漿タンパク質の機能と特性」(安東由喜雄、熊本大学)、

第49回日本臨床化学会年次学術集会  
躍進する臨床化学と医療への貢献

年次学術集会長: 中島 憲一郎  
(長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・薬学部)

シニアアドバイザー (長崎大学附属長崎県看護学分散所)

開催日: 2009年9月18日(金) - 20日(日)  
会場: 長崎大学医学部医学科  
【医学部記念講堂、良順会館、ボンペ会館】  
〒852-8523 長崎市坂本1丁目12-4; URL: <http://www.med.nagasaki-u.ac.jp/med/>

○ 共 催 ○  
第20回 日本臨床化学会九州支部総会、第54回 日本臨床検査医学会九州地方会

本学学術集会事務局 黒田 直敬 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究科・薬学部) 〒852-8523 長崎大学 1-14 tel. 095-819-2694, fax. 095-819-2444 e-mail. nkuro@nagasaki-u.ac.jp	運営事務局 株式会社コングレ 九州支社 〒810-0001 福岡市中央区天神 1-9-17 グラウンド福岡天神 tel. 092-716-7115, fax. 092-716-7143 e-mail. jscc2009@congre.co.jp
---	--

<http://www.congre.co.jp/jscc2009/> 連絡先 jscc2009@congre.co.jp

第49回日本臨床化学会年次学術集会ポスター

\*北海道大学大学院 保健科学研究所 chibahit@med.hokudai.ac.jp

ワークショップ1「臨床化学が拓くがん研究の最前線」などの発表が行われた。

第2日目は、シンポジウム1「臨床化学の若い力で発信しつつある新たな検査、病態解析法」、シンポジウム2「蛍光・生物発光現象と臨床化学」、教育講演3「我が国の臨床検査の標準化と全国検査値標準化の進展」(大澤 進、九州大学)、集会長講演「蛍光及び化学発光と臨床分析化学」(中島憲一郎、長崎大学)、特別講演「自然の実験系ATLに学ぶ臨床化学」(上平 憲、長崎大学)、受賞講演(学会賞)「原発性肝細胞癌組織のプロテオーム解析と病理組織診断への応用」(清宮正徳、千葉大学)、法人シンポジウム「抗体医薬と検査薬の今、そしてこれから」、ワークショップ2「定量遺伝子検査の精度保証と標準化へのキックオフ」が発表された。夜には稲佐山中腹の長崎ホテル清風で長崎の夜景と蛇踊りの実演を楽しみながらの懇親会が開催された。

第3日目は教育講演4「ポンペ・ファン・メルデルフォールトの近代西洋医学教育と臨床化学伝習」(相川忠臣、活水女子大学)、教育講演5「マイクロアレイと臨床検査：疾患病態解析への応用」(倉田寛一、シスメックス)、教育講演6「ミトコンドリア病とミトコンドリアDNA」(康東天、九州大学)、シンポジウム4「細菌感染症検査と臨床決断—検査結果をどう使うか」、教育実習セミナー「簡単・臨床化学に役立つデータ解析—分散分析入門—」、市民フォーラム「未病—

あなたの知らない病気の恐ろしさ」が発表された。

第3日目の午後1時半から翌日の正午までは脂質・リポ蛋白基礎セミナー(式見ハイツ)で、セミナーI「動脈硬化と臨床検査について学ぶ」、セミナーII「新しいリポ蛋白検査の原理と臨床的意義を学ぶ」、イブニングセミナー「映画の中に描かれた疾患を考える—喪失感と病気と映画」(安東由喜雄、熊本大学)、ナイトセミナーQ&A、モーニングレクチャー「HDL-C測定法をめぐる最近の話題」(千葉仁志、北海道大学)が発表された。実行委員長格である杉内博幸教授(熊本保健科学大学)の優れた企画のもとで127名の参加が得られ、20名以上を収容施設の定員オーバーという理由で断るほどの大盛況であった。このセミナーは、九州臨床検査技師会生物化学部門と日本臨床化学会リポ蛋白検査専門委員会が主催で、日本臨床化学会九州支部が共催し、実務は佐賀県臨床検査技師会が担当された。優れたチームワークは敬服に値した。北大からは教員2名のほか大学院生6名が参加し、基礎から最先端までの脂質・リポ蛋白検査を第一線研究者から直接に学ぶことができたのは幸いであった。

2010年の臨床化学会年次学術集会は、尾崎由基男教授(山梨大学)のもと、9月23日(木)~25日(土)に甲府市で開催されることが決定しており、夏期セミナーもクオリティマネージメントをテーマに予定されている。臨床検査学の教員と学生のより多くの参加を期待したい。